

# 受験申請システム 症例報告作成時の注意点

## 症例報告の文字数カウントについて

症例報告の文字数は、「スペース」や「改行」も1文字として文字数としてカウントされます。各項目内の文章はシステム上の『文字数チェック』を参考に1500～2000字以内に納めて作成ください。

Wordファイルと受験申請システムの仕様では、カウント形式が異なります。Wordファイルであらかじめテキストデータを作成される際は、以下の方法で文字数をご確認ください。

1. Word上にて、文字数カウントをしたい箇所をドラッグ（選択）する。
2. Word画面上部の『閲覧』ボタンをクリックし、その中の『文字数カウント』をクリックする。
3. 複数項目がある中で『文字数（スペースあり）』と『段落数』を足したものが、改行スペースなども含んだ文字数となる。
4. そこから4文字分（各項目の最終段落）を引いた文字数がシステム上での文字数となる。

※上記の確認方法であっても、数文字程度の差異が生じる場合がございますので、ご了承ください。

## 症例報告の【診療期間】と【症例報告で扱う期間】の定義について

### 【診療期間】

経験症例で登録した診療期間が自動で反映されます。

経験症例の診療期間は、

「自身が主治医として診療した期間の始まり～終わりの期間」としてください。

### 【症例報告で扱う期間】

経験症例で登録した【診療期間】内でご入力ください。

その際、“経験すべき治療形態”で選択した治療形態の期間を入力してください。

例)

主治医として治療に携わっている中で、

非自発的入院→自発的入院→外来というような治療経過をたどる症例の場合、

症例報告として取り上げる治療形態が【非自発的入院】であれば、

経験症例で登録した診療期間の中で非自発的入院にあたる時期を入力してください。

●新専門医制度専攻医（2018年4月以降研修開始の専攻医）

## 研修実績管理システム 【経験症例】 と【症例報告】の対照表

研修実績管理システム【経験症例】		受験申請システム【症例報告】
診療期間 ※自身が主治医として診療した期間の始まり～ 終わりの期間	➡ 自動入力	診療期間
		症例報告で扱う期間 ※「診療期間」内で入力 ※「治療形態」で選択した治療形態の期間を入力
治療場面（2つまで選択可）		治療場面（1つまで選択可） ※【経験症例】で登録した「治療場面」から選択
治療形態	➡ 自動入力	治療形態

※治療場面は【経験症例】は2つまで選択可だが、【症例報告】では選択は1つまで。  
複数の治療形態を経ている【経験症例】【症例報告】では1つのみ選択可。  
選択した治療場面、治療形態についての検討を中心に症例報告を作成する。

●新専門医制度専攻医（2018年4月以降研修開始の専攻医）

同一施設で研修歴が分割されている場合

- ・勤務形態が異なる
- ・中断期間をはさむ
- ・誤って分割して登録した → 研修歴の統合が可能な場合は研修歴を修正

- 【**経験症例**】は、どちらかの研修歴に紐づけて登録する必要がある。
- 【**症例報告**】の本文で研修歴をまたぐ内容を記載することは可能。  
登録した診療期間にかかわらず、主治医として関わり始めた時期をX年とし、X-1年・X+3年等の表記を用いる。